

福山市子ども会育成協議会 指導者・育成者研修会 《報告書》

日 程 2025年12月20日 (土) 13時30分受付 14時開催

場 所 福山市北部市民センター 多目的ホール

テーク 「子ども会がつなぐ地域と子ども」

講 師 全国子ども会連合会 美田 耕一郎 会長

今年は子ども会活動の基本を、指導者・育成者へ伝える為に開催しました。

今回の研修会には、子ども会育成者だけでなく、一般参加者、PTA、行政関係者など、幅広い立場の方々が参加されました。

1) 子ども会の役割について

美田会長は講演の中で、

子ども会とは、親が子どものためにすべてを行う場ではなく、子ども自身が企画や運営を経験する場であると話されました。

まずは単位子ども会の会計を任せてみるなど、できるところから子どもに任せ、経験させ、そして失敗させることが大切であり、その失敗こそが、子ども会においては「大成功」であると述べられていました。

特に会長の体験談は具体的で分かりやすく、多くの参加者にとって印象に残る内容でした。



2) グループワークを通して

講演後のグループワークでは、

「地域でのイベントは、1つの団体だけで主催するのは厳しいが、2~3の団体で協力すると取り組みやすい」といった意見が出され、他地域での取り組みを知ることができる非常に有意義な時間となりました。

また、グループワークを進める中で、私たち育成者自身もファシリテーターとしての意識を持つことの必要性を感じました。



3) 参加者アンケートより

参加者アンケートでは、

「子ども会は“ゆるい”会であるという言葉が印象的であった」

「今後は、子どもが失敗しても見守っていきたい」

といった声が寄せられました。

4) 今後に向けて

講演を聞くだけで終わらせるのではなく、地域や学区に持ち帰り、話し合いを重ねながら今後の活動に生かしていくことが必要です。

子ども会活動において足りないものは「共有」であると感じました。

情報や悩みが共有されないことで負担感や強制感が生まれ、役員のなり手不足につながっている現状があると考えられます

共有していくことの大切さ、そして他学区とのつながりの必要性を改めて実感しました。

また、子ども会が「なぜ今必要なのか」を私たち自身が十分に説明できていない現状があることから、受け身でいるのではなく、私たち自身が学び続けていく必要性も感じました。

社会教育の専門性を高める取り組み（社会教育主事という資格）にも積極的に関わっていこうという前向きな意見も出ています。子ども会だけでは無く地域を含めた取組み

各地域にはそれぞれ行事や活動の特色があり、今後の活動について「こうすべき」「こうすればよい」という明確な答えは一つではありません。

各自がそれぞれの地域で単独で頑張っていますが、

「どの地域も頑張っている」ことを認め合い、応援し合える活動を、今後も続けていきたいと感じました

司会という大役を見事に果たしてくれたジュニアリーダーの存在もよかったです！

